

もりぐち通信

大淀NEWS

令和7年12月号

発行所 森口たかし後援会
発行責任 森口たかし
〒639-3125 奈良県吉野郡大淀町北野138-12
電話 0746-47-2332
FAX 0746-47-2334
morisuchi@ecoju.com
政治活動報告 内部討論資料

総務建設産業委員会
副委員長 ざくら広域保健衛生組合
総会総長
大淀町消防委員会
総務高齢者区民広域連合
総会総長

誰一人取り残さない

緊縮財政まだまだ続く 毎年4〜6億不足

健康づくりセンター 遂にシャワー

令和7年9議会日程

9月5日 本会議

9月8日

文教厚生委員会
総務建設産業委員会

9月9日 本会議

(一般質問)

9月10日 本会議

(一般質問)

9月11日

決算・予算審査特別委員会

9月12日

決算・予算審査特別委員会

9月16日

決算・予算審査特別委員会

9月17日

決算・予算審査特別委員会

9月18日

決算・予算審査特別委員会

9月19日 本会議

ます、今後の見通しは？

回答

排水管の修繕とそれ以外の修繕も含めて調査中です、この機会に全体的な設備の点検を実施しております。

森口の質問

損から先の施設ではいけません。

たとえば大阪城公園は指定管理(注①)を公募して年間4000万円の赤字から脱却し、2億円の納付をもらっています。

大淀町健康づくりセンターについて。

7月28日より部分的な再開を行い、2階スタジオとトレーニングセンターを再開しましたが、エレベーターとシャワーが使用中止状態での再開でした。

今回はガス給湯器シャワーの設置につきまして、補正予算の提案です。

設置工費は198万円です。

同僚議員の質問

開館時間が利用者の需要と合っていないので検討をお願いします。

一日も早い再開を期待します。



回答

この現状を引き起こした原因は2つです、指定管理業者ミズノの撤退と、23年という老朽化で設備の更新時期にあたりました。

次の指定管理業者と、より経済的でサービスの充実した事業にしていかなければならない、専門的な知識を持ち、魅力的で利用者が増えるような事業展開ができるよう事務を進めております。

良いパートナーが決まるように努めてまいります。

再度森口

水が豊富な我が町です、プールが町のアピールにもなります、成功させて利益も生み、空地の有効利用も兼ねて、プール2号店ができるほどの事業になるよう進めてください。

この件にしまして

プロボーサルの内容を根底からやり替える覚悟、丸投げ体質の改善、

国庫補助金の洗い直し、高齢者の健康維持、子ども達の泳ぐ機会を奪ったのは行政の落ち度です、

大淀町の魅力創出が大事な時期です、この際素晴らしい施設にしていきたいものです。

注① 大阪城公園パークマネジメント事業
公園、庭園、天守閣、音楽堂を20年間の指定管理。

①管理運営・維持管理に関する業務、②魅力向上に関する業務。

博物館・迎賓館をレストラン、カフェに、有料児童遊園、施設、体験型アトラクションやコンビニも併設。

総務建設産業委員会
9月8日

町税条例の一部を改正
「特定親族特別控除」

扶養控除の給与収入要件が103万円から123万円に引き上げられます。

また、特定親族特別控除の創設に伴い、生計を一にする一九歳以上二三歳未満の子等で給与収入が123万円超160万円以下のものを有する場合は、特定扶養

控除と同額の45万円の控除を受けられ、160万円超188万円以下のものを有する場合は段階的に減減される特別控除を受けられるようになります。

「加熱式たばこに係る課税方式の見直し」
加熱式たばこの税率が約5円程度上がるようです。いずれも詳しくは税務課へ。

本会議
一般質問
9月9日

森口の質問

町長は令和4年10月のあいさつで、

「安心して生活できる町、活躍できる町、稼げる町に変える、次の世代に、魅力ある住みやすい町として引き継ぐことができるよう、町民のみならず共に歩んでまいります」とされました。

既に3年が過ぎて公約は守られませんでしたでしょうか？

あと1年でどうするのか、所信表明の公約は守られましたでしょうか？

子育て世代の移住促進につきましては実績として、どれだけ来られましたか、また転出はどれくらいですか、確認させていただきます。

二度とない
人生だから

一輪の花にも
無限の愛を

そそいでゆこう
一羽の鳥の声にも

無心の耳を
かたむけてゆこう

二度とない
人生だから

まず一番身近な
者たちに

できただけの
ことをしよう

貧しいけれど
こころ豊かに

接してゆこう

二度とない
人生だから

つゆ草のつゆにも
めぐりあいの

ふしぎを思い
足をとどめて

みつめてゆこう
眞民

坂村眞民先生

明治四十二年熊本生まれ

森田三先生の教示を受けて、自らの詩をつづった月刊詩誌「詩国」を創刊、「念ずれば花ひらく」「二度とない人生だから」が多くの教科書に掲載。

私に贈られた生き方のヒントを伝えてくれます。